

18 山砂利層

写真



解説

岡山県では、吉備高原頂部付近に分布する第三紀後半期から第四紀更新世にかけて形成された未固結な礫層を一括して「山砂利層」と呼称されている。写真の山砂利層は高梁市川上町で撮影されたものであるが、径が25～50mmの亜円・亜角礫を多量に含有し、礫内部まで風化したクサリ礫は少なく、ほとんどが硬質礫で構成されている。山砂利層は、道路設計等においては小～中構造物の支持層として利用され、また、分布地が緩傾斜の丘陵地形を形成することから、造成地として利用されることもある。

提供者 氏名：内田 澄夫 所属 (株)荒谷建設コンサルタント